

2021年度 第1回学が喜び・ESD 連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

開催日時	2021年6月24日(木) 19時~20時30分
会場・方法	奈良教育大学次世代教員養成センター2号館 多目的ホール ZOOMによるオンライン・ハイブリッド
参加者数	対面式:10名、オンライン:58名 計68名
内容	「教育委員会が求める先生とは」 講師:前大牟田市教育長 安田 昌則 氏

1. ユネスコスクールのみち・大牟田



安田 昌則 氏

- ・かつては「炭の都」:石炭化学コンビナート
昭和30年代には20万人規模であったのが、10万人まで人口減少・高齢化
- ・大牟田は持続可能な街を目指さなければならないという使命感のもと「ユネスコスクールのみち 大牟田」の第1歩として、ユネスコスクールへ全市立学校が加盟申請。
- ・「ユネスコスクール・ESDのみち おおむた」宣言
- ・「まちづくりは人づくり」という基本方針の中、教育課程(ESD年間指導計画)・公務分掌(ユネスコスクール担当者)の中にESDを位置づけた。

- ・【基本理念】「社会を生き抜く力を身に付けた「おおむたっ子」の育成」
- ・大牟田市の教員の年齢構成:20代・30代が多い。40代は少ない。20代・30代の先生に、学校全体の運営への意識を持たせ、教員をどのように育てていくのが課題。

2. これからの教育観

(1) 現代:知識基盤社会

グローバル化。情報化・少子高齢化・資源の有限化・地域コミュニティ

- ・VUCAな世界(不安定 Volatility、不確実 Uncertainty、複雑 Complexity、不明確 Ambiguity)
- ・第4次産業革命 AI society5.0 に生きる子どもを育てるのが私たちの役割
- ・型の決まっていない非反復型の仕事を中心になっていく
- ・ラーニング・コンパス

VUCAな世界で満足のいく人生を過ごしていくために、生徒がウェルビーイングの実現(自分自身、他者そして地球の)に向けて自分をナビゲートするよう学ぶことが必要である。

- ・生徒のエージェンシー

「生徒が自分自身の生活や周囲の世界に対して良い影響を与える意志と能力を有しているという信念」

「目標を設定し、変化を生じさせるために責任ある形で振り返り、行動する能力」

- ・OECD Education 2030 プロジェクト:変革を起こす力のあるコンピテンシー
①新たな価値を創造する力、②対立やジレンマを克服する力、③責任ある行動をする力

(2) 学習指導要領ではESDが基盤となる

①学びに向かう力・人間性に関して：どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

ESD 的価値観と行動：ESD の学びを通じて多様性を尊重する態度や協働する力、主体的に持続可能な社会づくりに向けた態度や価値観の涵養

②思考力・判断力・表現力

ESD 的問題解決プロセス：ESD の探求・問題解決プロセスでの問題を発見する能力や、批判的、体系的。包括的な思考力等の育成と様々な場面に応じた判断力や意思決定能力の育成、協同的な学びのなかでのコミュニケーション力や表現力の育成

③知識・技能

ESD 的知識・技能：ESD のによる体験と関わり、探求や問題解決等の活動を重視した実感的かつ体系的な理解の促進と、観察や実験、探求等の実践的な技能の習得

(3) 学校現場における ESD のさらなる推進方策

- ・ ESD はアクティブ・ラーニングを実践する上で効果的である
- ・ ESD は学習指導要領に基づく指導内容を充実させるものである。

(4) 大牟田の学校では

- ・ ESD は子どもたちが地球規模の課題を自分の問題としてとらえ（自分事）、自分なりに考え、行動するための学びとしてとらえている。（自分自身と社会を変容することを学ぶ）
- ・ ESD を推進することが SDG s の達成に貢献することになる。

3. 教師の役割

- ・ 第 2 期 ESD 国内実施計画 教育者の能力構築の重要性が示されている
- ・ ESD に関する世界会議：ESD に関するベルリン宣言：ESD 推進のための教師の重要な役割が明記
- ・ 奈良教育大学の 3 つの柱：「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」

(1) ユネスコスクール教員へのアンケート

- ・ 教員のカリキュラム・教授法の変化について
 - ①カリキュラムマネジメントを工夫するようになった
 - ②授業等を見直す機会をもつようになった
 - ③教材や資料、発問を工夫するようになった
 - ④課題を発見できるようなカリキュラム開発をするようになった
- ・ 教員の学校運営の変化
 - ①地域の方々と交流し、双方の信頼関係が深まった
 - ②学校全体で ESD に取り組む機運が高まった
 - ③継続的に実施できるような仕組みづくりをするようになった
 - ④教員間で持続可能性に関する価値観を話し合う場をもつことができるようになった。

(2) 教師の姿勢

①ウィリアム・アーサー・ウォード

凡庸な教師は指示をする

良い教師は説明する

優れた教師は範となる

偉大な教師は内なる心に火をつける

②子どもたちが主体的に取り組む仕組みづくりが大事だ。

・修学旅行先で大牟田の産品を販売しよう

新しい特産品を考え、販売しよう HAKKO クッキーができた

大牟田の良さを知る。良さを発信しよう。

大牟田を知る。大牟田の課題を知る。高齢者の一人暮らしが多い ペアショッピング

共生社会に向け生徒たちなりに考え、行動する。

※中学校で ESD を学んだ子どもが大きくなって、大牟田市の教員になってくれたのがうれしかった。教育を受けるものが、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることが重要だ

ユネスコスクール・ESD 子どもが自ら学び、ともに学び合う 主体的で対話的で深い学びができる

(3) 心に火をつける教師

①人間的魅力

教師が自己を磨き、日々精進し事故を変えようとする。生徒一人一人を本気で育てようとする

②生徒に対する深い愛情

生徒一人ひとりの実態を十分に理解し、真剣に指導していく

③学び続ける姿勢

学習指導力、授業構想力、生徒指導力、集団指導力等教員の力量を高めるために学び続ける

(4) ESD を推進する教員に求める力

①世の中の動きに敏感で、現代社会の課題を理解していて、その課題の解決に教育が果たす役割を強く感じている。

②子どもの意志決定や主体的な学びを大切にする教育の姿勢をもち、人間的な成長を促そうとしている

③物事を関連付け捉え、考える力があること。

④ネットワークをつくり、多様な人々と協働することができる。

⑤カリキュラム・マネジメント力がある

・地域の教育資源を効果的に活用して教材をつくることできる (教材開発)。

・教科横断的なカリキュラムによる効果的な指導ができる。

・専門家活用するなどして子どもの探求的な学びを支援。指導することができる。

※大事なことは一生懸命な姿

※みんなと一緒に取り組んでいくんだという意欲

※令和の日本型学校教育：教員は伴奏者、スタッフとチームとなって取り組む

ルイ・アラゴンのことば

教えるとは希望を語ること

学ぶとは誠実を胸にきざむこと